

2014 年度名古屋学芸大学健康・栄養研究所 研究・実践報告

■研究・実践の課題（テーマ）

実務者のための栄養ケアマネジメント研修会（臨床栄養分野）

■主任研究者 塚原丘美

■共同研究者 立花詠子、畠山桂吾

■研究・実践の目的、方法、結果、考察や提案等の概要

【目的】

名古屋学芸大学管理栄養学部はこれまでに約 1,300 人の管理栄養士を養成し、多くの病院栄養士を輩出してきた。この卒業生の中から、今から 10 年後に、この東海圏でキーパーソンになるような病院栄養士を育成することが望まれる。

レベルの高い栄養管理業務を行うためには、実務者においても研究活動は必須である。しかしながら、名古屋学芸大学の卒業生で、臨床系あるいは栄養学系の学会などで発表するような研究活動を行っている病院栄養士は非常に少ない。そのため、卒業生自らが研究活動を行ない、その成果を発表できるようになるための研修会を積み重ねていく必要がある。そこで、本年度より、そのきっかけとなる機会として研修会を開催する。

【方法】

対象： 5 年ほど病院栄養士として勤務経歴のある卒業生 7 名

《参加者》	畠山桂吾	（名古屋第二赤十字病院）	（3 期生）
	石郷岡亜美	（四日市糖尿病クリニック）	（3 期生）
	志田衣里	（総合青山病院）	（3 期生）
	増田明啓	（安城更生病院）	（4 期生）
	要石愛加	（名古屋第二赤十字病院）	（5 期生）
	藤掛満直	（蒲郡市民病院）	（6 期生）
	谷口可純	（わたなべ内科クリニック）	（8 期生）

日程および会場：

（第 1 回）平成 26 年 11 月 29 日（土） 安保ホール および ウィンクあいち

特別講義として、「臨床研究を始めるにあたって」と題して講演をしていた。

講師 中島英太郎 先生（中部ろうさい病院糖尿病センター・内分泌内科部長）

その後、各自の研究計画を発表し、講師の指導を受けた。

（第 2 回）平成 27 年 3 月 14 日（土） 安保ホール

各自が行ってきた研究結果の報告およびディスカッションを行った。

【結果】

参加者の多くは研究活動を行っていなかったため、始めるきっかけになったという意見が多かった。また、研究をどのように進めたらよいのか、結果のまとめ方に問題はあるのか等、研究を進める上での疑問点を明らかにできた。また、それぞれの研究内容を皆でディスカッションすることで、研究の進め方や結果の出し方、やり方などを改めて考えられ、有意義であったとの感想が多く聞かれた。

今年度の研究要旨を添付する。このうち、結論まで至った研究は2テーマ、データ収集途中あるいは解析途中でまとめれば結論まで至る研究は4テーマ、研究計画をやり直す研究は1テーマであった。

【考察】

管理栄養士は研究発表をする機会も少なく、また、研究活動を行っている病院栄養士も少ない。よって、研究を始めるためのきっかけを作ることは非常に有意義であると考えられる。